

社会・対人技術の発達評価シート

記入にあたっての注意事項

日頃お子さんのことを最もよく知っている職員が記入してください。

I. 適切な社会・対人技術

○ふだんの子どもの生活の中で、該当項目があるかどうかをチェックしてください。

○1からつけはじめ、30項目すべてにお答えください

1. 誰かが話してきたら顔を見る（明らかに人の言葉に対して反応しそちらを向く）
2. 誰かが話をしてきたら何らかの明らかな反応をする（からだを動かすなど）
3. 何かしてもらおうと嬉しそうな顔をする（嬉しそうな表現があればよい）
4. 気持ちを顔に出す（快、不快、喜び、怒りなど明らかなものであればよい）
5. 挨拶をする（「おはよう」「ありがとう」など2つ以上正しく使える。自分から先にいなくても、「～ちゃん、こんにちは」などとあいさつされて答えるのもよい）
6. 人に近づきおしゃべりをする（おしゃべりする時に、自分から人に近づく）
7. 話をする時には顔を見る（自分が話しかける時には相手の顔を見る）
8. 誘われれば遊び仲間に入れる（仲間のあとにくっついて遊ぶ。自分から友達を遊びにさそうことはできなくても、年長の子供にリードしてもらえば一緒に遊べる）
9. 他の子に思いやりのある行動を示す（いたわる、大切にす、なぐさめるなど何らかの兆候があればよい）
10. 他の子に攻撃的な態度をとらない（他の子に乱暴したり、どなったりしない）
11. 自分の姓と名を言える（名前を聞かれたとき、名前だけでなくきちんと姓名がいえる）
12. 見たり聞いたりしたことを自分から話せる（身近なできごとについて説明することができる。たとえば、昼間のできごとを、夜、おとなに報告する。いつ、だれが、どこで、何をしたのか、ひとつひとつ聞き出さなくても大体説明できる）
13. 「あとで」と言われて待つことができる（やりたいことや欲しいものがあっても、いい聞かせれば、だだをこねないで待つことができる。単にあきらめるのではない）
14. 持っている物を他の子と分け合う（おかし、おもちゃ、粘土など、なんでもよい）

15. 人の話を最後まで聞く（何か言いたくても、最後まで聞いてから話す）
16. 順番が分かる（おとなが指示すれば、順番を待ったり、次にゆずったりできる）
17. おもちゃの貸し借りをする（おとなの指示がなくても、子どもたち同士で順番を決めたり、貸し借りして遊ぶ）
18. 必要な場面ではお行儀よくしていただける（1時間くらいなら、おとなどうしの話合いの中などでもがまんして静かにしている）
19. 欲しい物があっても説得されればがまんできる（買物や外に行ったときなど。もらえないから単にあきらめるのではなく、おとなの説明を納得してがまんする）
20. 大勢の人の中でだだをこねない（乗り物の中など、大勢の人のいるところではわがままを自制できる。ふだんならがまんできないことでもよく辛抱する）
21. けがをした友だちを助ける（けがをしなくても、どこかにぶつけるなどでもよい。どうしたのと心配する、先生を呼びに行く、いっしょに行くなどの行動をとる）
22. 寂しそうな友だちを元気付ける（どうしたのと声をかける、一緒に遊ぼうとするなど）
23. 誰かが失敗すると励ましたり慰めたりする（大丈夫、がんばろう、など声かけや態度など）
24. 誰かが上手にできたら嬉しい（声に出してよかったねと言う、微笑む、手をたたくなど）
25. 誰かが上手にできたら「じょうず」とほめる（言葉に出して言うこと）
26. いいと思ったらその人に「いいね」と言う（言葉で表現する）
27. 友だちに何か頼まれると手助けする（友だちの依頼に答えようとする）
28. 自分から友だちを手伝う（言われなくても自発的に手伝おうとする）
29. 自分にできることはないか聞く（何か手伝うことができないか確認する）
30. 自分の意見と違っていても皆が決めたことに従う（意思に反しても集団のルールに従おうとする）